

みなぼーと新潟

Vol.2

2007.春

<特集>

●港の元気さん!笑顔さん!

<みなと物知り博士>

●よみがえれ!私たちの砂浜!

<コラム みなと今昔>

●新潟の開港事情

<みなぼーと広場>

●夢を語ろう未来に向けて



特集

港の元気さん!笑顔さん!

新潟の港には、いろいろな船が往来し、
船着場や魚市場などの賑わいどころがいっぱいあります。
そこで今回は港で働く元気で爽やかな人たちをご紹介します。

さあ、みんなで港に出かけましょう。



楽しみ方が多彩な水上バスで、 ロマンチックな信濃川クルーズを満喫



「船の往来で港らしさが伝わってくるのは15時ごろ。四季折々の草花が彩りを見せるやすらぎ堤も信濃川から見るとまた格別ですよ」。キャビンアテンダントの川崎友美さん

●信濃川ウォーターシャトル(株)

新潟市歴史博物館みなとびあから、朱鷺メッセ、万代シティ、県庁、新潟ふるさと村までを巡るおしゃれな水上バスが、信濃川ウォーターシャトルの“アナスタシア号”と“ベアトリス号”です。通常はみなとびあから新潟ふるさと村までを定期運航しているほか、周遊便やチャーター便、ランチクルーズ、パーティクルーズ、クリスマスクルーズなど多彩な利用方法があることから、1年間に約5万人が乗船しているとのこと。「なかでも8月には花火クルーズや水上渡御クルーズは大変な人気です」と、キャビンアテンダントの武田さん。豪華クルーザー風の船で、ソフトドリンクやアルコール類を飲みながら新潟の景色を眺める、ロマンチックなひとときを過ごしてみませんか。

新潟市中央区下大川前通二ノ町2230-33

TEL025-227-5200

<http://www.watershuttle.co.jp>

「お客様に「また来たい」と思ってもらえるよう、日ごろから周辺情報を勉強しています」。キャビンアテンダントの武田亜里沙さん



各シャトルのルートマップ

アナスタシア号

ベアトリス号

湖 姫



港から港へ。人とモノを運ぶフェリーが誘う、くつろぎの日本海クルージング



新潟港からの航路



「旅の始まりでワクワクしているお客様の顔を見ると、私もうれしくなります」。笑顔が印象的なマリンスタッフの村松雅代さん

●新日本海フェリー(株)

日本海側の物流・人流を担っている新日本海フェリー。新潟からは、小樽への直通航路と、敦賀～新潟～秋田～苫小牧東航路を就航しています。現在、新潟から北海道へは年間約10万人が、北海道から新潟へは9万人と、多くの方が利用しています。船旅は、何ととっても安くてのんびりできるのが魅力。小樽までの乗船時間は約18時間ですが、リゾートフェリーなので極上の船上ライフも実現可能です。船上から眺める夏の夕日やイカ釣り船の漁火の美しさも見逃せません。「お客様の快適な船旅のために、安全を守るのが我々の仕事です。港に着くまで気は抜けません」。キャプテンの頼もしい言葉に、安心を確信しました。

新潟市東区古湊町2-20 山の下埠頭
 旅客025-273-2171(代)
 貨物025-273-2298(代)
<http://www.snf.co.jp>



船乗りの町、能登の門前町出身で、海外航路経験も豊富なキャプテン坂下明彦さん。「新潟港は川の流れて入港が難しい場所ですが、それだけに達成感があります」



新潟・小樽間を就航している“らいらっく号”&“ゆうかり号”は充実した設備のリゾートフェリー。ステキな船旅を約束してくれる

●(株)マリン商事

土日祝日は水上バスのシャトル便として、平日は周遊便として活躍する“湖姫”。大きな窓から光や風を感じ、デッキではカモメと遊び、楽しいクルージングです。この船のキャプテンは、小さい頃から船に慣れ親しんできたという種村淳子さん。「船の魅力を知って欲しい」との思いからこの仕事を選んだそうです。「人の命を預かる仕事だけに、とくに着岸時は慎重になります。毎日、信濃川の美しさを実感しているので、川と海に囲まれた港町・新潟の魅力、県内外の人に広めていきたいですね」。ランチクルーズやサンセットクルーズ(要予約)もOKとのこと。気軽に小さな船旅を楽しめます。

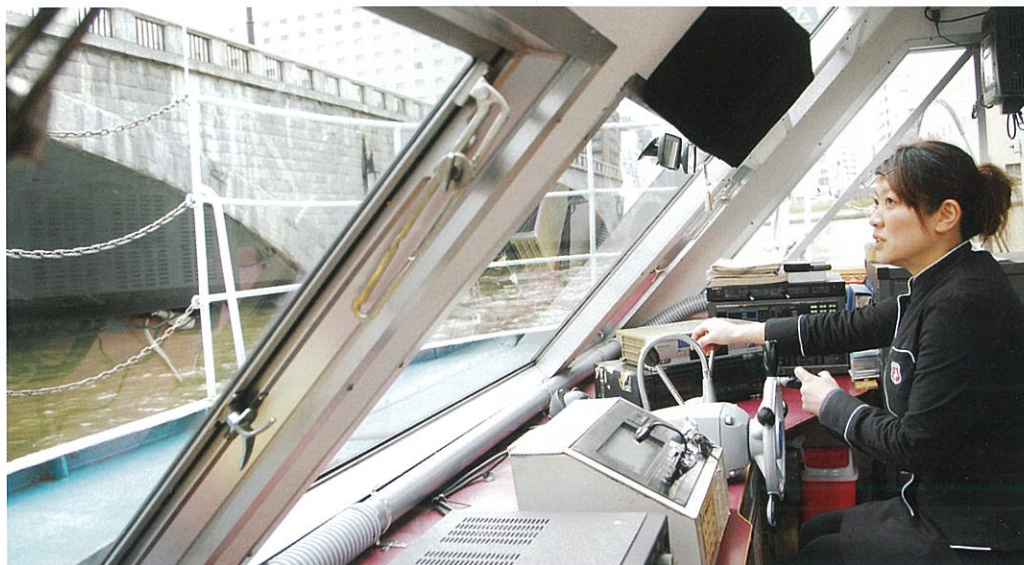
新潟市中央区入船町4-3776-22
 TEL025-228-2745
<http://www.kohime.jp>

港町生まれの女性キャプテンが操る“湖姫”で港町を楽しんで



虹がトレードマークの“湖姫”。グループやファミリーで乗るにはぴったり

「信濃川クルージングは、確実に“楽しい”時間を過ごせます。ときにはカワウやカワセミも発見できるんですよ」。キャプテンの種村淳子さんは17歳で小型船の免許を取得したという



朱鷺のいる島・佐渡への定期航路。 総合案内所では感動の旅をナビゲート

●佐渡汽船(株)

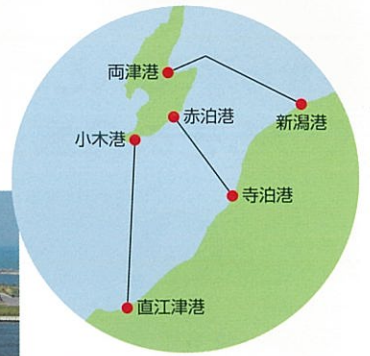
本州と佐渡ヶ島を結ぶ佐渡汽船は、佐渡の住民にとっては生活航路であり、観光客にとっても大切な交通手段。1年間に65万人以上の観光客が利用する佐渡汽船乗り場は、佐渡への玄関口としてつねに活気に満ちています。その総合案内所では、乗船チケットの予約はもちろんのこと、宿泊先探しや予約、観光案内まで、さまざまな要望に応じてくれると好評です。担当者のひとり、山形さんは佐渡出身とのこと。そこで地元ならではのおすすめ情報を聞いたところ、「最近ではドンデン山のトレッキングが人気ですが、私のオススメは、小木の長者ヶ橋から見る海の絶景。秋のキノコもおいしいですよ」と教えてくれました。

新潟市中央区万代島9-1
TEL025-245-1234 (総合案内所)
<http://www.sadokisen.co.jp>

「佐渡の旅はおまかせください。フェリーのチケット予約だけでなく、さまざまご相談にお応えします」。総合案内担当の、左から長谷部郁子さん、村川歩美さん、本間羊子さん、山形千絵さん



新潟港～両津港をカーフェリーで2時間30分、ジェットfoilで1時間で結び



越佐海峡を結ぶ佐渡汽船は、新潟～両津のほか、寺泊～赤泊、直江津～小木の航路もあり。10月までのお得な日帰りプラン/寺泊、直江津からは6,300円、新潟からは10,000円



港の元気さん！ 笑顔さん！



朱鷺メッセのお蔭元の港に新潟のおいしい魚が水揚げされ、売買されている。初めの値段は日常の情報や、前の相場などを参考にしてつけるとか

漁船から水揚げしたばかりの 越佐の海の幸が集まる市場

新潟の漁師と業者の橋渡し役、競人の高橋博之さん。「これからはウスメバル、ゴマメバチといったメバルの仲間が美味しいですよ」



●新潟漁業協同組合 市場

越佐海峡の魚介類がずらりと並ぶ新潟漁協の市場は、朝5時になると威勢のいい競人(せりにん)の声が響き始め、大手の鮮魚店やスーパーなどの買い付け人たちが競り落としていきます。新潟産の魚に初めて値が付く瞬間です。底引き網、板引き網、巻き網などを行っている船が市場の目の前で水揚げしているので、活きがよいだけでなく種類が豊富です。競人の高橋さんによれば、「越佐海峡はプランクトンが多い漁礁、だから魚はどれも旨い。なかでも脂がのっているカレイや甘みのある南蛮エビは格別だよ!」とのこと。魚屋さんにとって、木箱に書かれた(新)の新潟漁協のマークは、おいしい魚の証となっています。

新潟市中央区万代島4-1
TEL025-244-6181
<http://www.jf-net.ne.jp/nigyokyo/>

新潟の港を守り、日本の海を守る船。 その活躍を支える3名のコック(司厨手)

旬の素材を取り入れた家庭料理が中心。24時間体制のため、夜食も作ることも。人気は特製ラーメンとか。左から永井浩章司厨次長、早川収司厨長、横野繁幸司厨手



●大型浚渫兼油回収船「白山」

新潟西港は、信濃川の上流からの土砂が流れてきて溜まるため、船が航行できるように川底にたまった土砂を掘って水深を確保する“浚渫(しゅんせつ)”という作業が必要になってきます。その浚渫作業を行っている船が、「白山」です。また「白山」は全国に3船配置されている高機能の大型油回収船の1船であり、油流出事故が発生した場合は直ちに現場へと向かいます。そのため、船内の厨房では普段の食事を作るだけでなく、2週間分の食料を備えています。「私たちにとって乗組人が喜ぶメニューを考えるのが大切な仕事です。いざというときは、現地調達も考えます」。早川司厨長と2名の司厨手による料理が、みんなの健康を支えているのです。

国土交通省北陸地方整備局新潟港湾・空港整備事務所
新潟市中央区入船町4-3778

TEL025-222-6111

<http://www.niigata.pa.hrr.mlit.co.jp/hakusan/>



平成14年から活躍する大型浚渫兼油回収船「白山」。日本海を24時間以内、北海道周辺海域でも2日以内に油回収作業が行える

朱鷺メッセのお膝元にある新潟っ子の台所は、 港の賑わいの発信基地「魚のふるさと万代島」

●(株)万代島鮮魚センター

「魚のふるさと万代島」は、新潟漁協に隣接する、いわば新潟漁協の直販部門。新潟の新鮮な魚介類をリーズナブルに提供していることから、地元客はもとより県外客からも人気です。「朝早くからオープンしているので、散歩がてら魚を買っていかれる常連さんもいます。新鮮な魚を使った刺身定食やイクラ丼、それに無料サービスのガラ汁もオススメですよ」。もともと、「新潟の港を賑やかにしよう」という目的でつくられたお店だけに、夏の炭火での浜焼きや、コンサートなど、賑わいのためにいろいろなことにチャレンジしています。ホテルや旅館のパンフレットや新潟の観光情報が並ぶコーナーもあり、利用価値大です。

新潟市中央区万代島4-1 TEL025-241-0111

営9:00～18:00

(朝は早くから店の人が来ているので対応可能)

<http://www.sakana-bandai.com>

「刺身やサク取り、三枚におろすなど、要望に応えます。魚のおいしい食べ方もアドバイスしますよ〜!」。スタッフの田之口清市さん、伊藤ミエ子さん、込山彰さん





よみがえれ！私たちの砂浜！

日本の海岸線のほとんどが
侵食、高潮におびやかされているのが現状です。
新潟西海岸も住民から砂浜の復活を要望する声が高く、
人と海のふれあいの場として、
海浜空間を形成することが望まれています。



新潟西海岸からの夕日

♪ 海は荒海 向こうは佐渡よ、すずめ啼け啼け もう日は暮れた (童謡「砂山」)

■ 300mもあった砂浜、大きく後退した新潟西海岸



大正7年の西海岸

新潟測候所

現在の海岸線



昭和3年頃の新潟測候所



昭和24年

昭和24年頃には新潟測候所だった建物が海中に没している

■ 昭和62年度より面的防護工法を導入し、侵食対策事業を実施

■ よみがえりつつある新潟西海岸



にぎわう砂浜

※このイラストは新潟港湾・空港整備事務所の「新潟西海岸復元イメージ図」をもとにNPO法人新潟みなとクラブが作成したものです。

新潟西海岸 豆知識

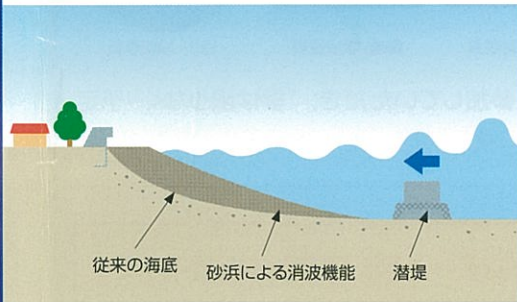
新潟西海岸の侵食は、港周辺の暮らしに大きな影響を及ぼします。

《海岸侵食対策事業》

昔は海水浴で波打ち際まで行くのに、砂の熱さで耐えられない想いをしたことを経験したと思います。その砂浜も今はほとんど削り取られて、海岸線の直背後まで迫っており、侵食に対する住民の不安は計り知れないものがあります。このような状況を食い止めるための施策です。

《面的防護工法》

約500m沖合いの海中部に設置した潜堤により、波浪を減衰し、養浜により波力を吸収、さらには、養浜砂の移動を抑制するため突堤を整備し、いくつかの施設を複合的に配置した防護工法を面的防護工法という。



《童謡「砂山」》

この歌は北原白秋が作詞したもので、大正11年6月半ば、白秋は新潟市の師範学校で行われた童謡音楽会に出席しました。その席上、「新潟の童謡を作って欲しい」と依頼された白秋は、会が終わった夕刻に、学校の近くにある寄居浜を散策した時の光景を詠ったものだそうです。



北原白秋「砂山」の碑

コ・ラ・ム みなと今昔

三村哲司(NPO法人新潟みなとクラブ会長、亀田郷土資料館長)

～開港前夜～ 新潟の開港事情 ～異国船来る～

嘉永6(1853)年、アメリカのペリーが浦賀に来航し、日本の開国を要求する国書を幕府に提出して以来、安政5(1858)年、アメリカ、オランダ、ロシア、イギリスと通商条約が締結された。

この通商条約には新潟を含むいわゆる五港、即ち、函館・横浜・兵庫・長崎を「西洋紀元1860年1月1日に開港する」と決定していた。その期日は、日本の暦(陰暦)では安政6年12月9日である。

開港場に新潟が含まれていたとはいえ、日本海側唯一の開港場新潟は外国船にとって未知の港である。実際の開港までに事前調査が必要である。

はたせるかな、安政6年4月22日午後1時、港の沖合いに1隻の黒船が姿を現した。船籍はロシア、船名はジキット、船長はマイデル、乗組員は100余名のものである。新潟奉行所は川村奉行就任当時から異国船の来航に備えてはいたが、州崎番所からの報告を受けて緊張した。早速、村継ぎで新発田藩、村松藩に出兵を求めた。

翌23日午前、ロシア人は信濃川の両岸に二隊に別れて足跡を残した。初めて見る長靴の足あとに、新潟の人々は好奇と恐怖の感を抱いたに違いない。彼らの調査の目的は、港の水深であった。

この日オランダのバーリー号も港外の沖に停泊。翌24日船長イハンカベルレンと士官4名は休息所にあてられた願随寺で奉行所役人と会見、市内を遊歩した。これが新潟人が紅毛碧眼の異国人に接した最初であった。上掲の絵図『新潟湊之真景』は応接船が黒船に幟を靡かせ、用向きを同いに引き船に曳かれて接近し、信濃川両岸に新発田藩、村松藩の軍船が臨戦態勢で待機している緊張した当時の状況を、如実に活写したものである。

通商条約によって、安政6年5月26日横浜・長崎・函館は開港するが、新潟などの開港は幕末の政治情勢の紛糾によって実行されず、幕府は使節をロンドンに送って開港を慶應3(1867)年12月まで延期することに成功した。

その期限が近づいた慶應3年8月3日、イギリス公使パークスは通訳アーネスト・サトウを伴って来航した。新潟港を調査したパークスは開港場としては適当でないと判断し、加賀藩の七尾に向かった。七尾



幕末新潟湊を調査したイギリス公使パークス【新潟港湾・空港整備事務所提供】

はパークスの目から見ると能登半島に抱かれた自然の良港に見えたのだろう。彼は熱心に七尾を開港場にするように幕府に交渉した。しかし、幕府はそれには応じなかった。新潟は幕府直轄の天領である。攘夷鎖国を叫ぶ武士などいない町人の町である。外国人とのトラブルをさけて幕府は新潟開港を譲らなかった。しかし、新潟開港は更に遅れるのである～戊辰戦争の勃発である。

みなぼーと広場

「夢を語ろう未来に向けて」 第1回新潟みなと学校開催

新潟みなとクラブは2月3日土曜日午後、クロスパルにいがた（新潟市礎町）で「第1回新潟みなと学校」を開催しました。阿部理事長挨拶、中谷内副理事長の「新潟みなとクラブの活動紹介」に引き続き、1時間目の授業は三村会長の「港にまつわる話～水都新潟の源流～」と題して講演が行われました。続いて2時間目は、小島理事が学級委員長を務め、学級委員として森下英矢氏（NAMARA）、高橋哲郎氏（関東マリン事業協会理事・新潟支部長）、桜井佑さん・鎌倉敏士さん（新潟大学院生）、谷川郁さん（新潟デザイン専門学校生）と一般参加者も加わってのホームルームで、みなとの夢について話し合いました。

- ♠若者、カップルが足を向けたくなるような魅力が欲しい。
- ◆まちの色、みなとの色（イメージカラー）も有るが、色をつけず「自然に染まるまち」も美しい。
- ♣「日本海に沈む夕日」はずばらしい。この新潟の魅力をもっと活かそう。
- ♥港の機能にもっと人間的な情感の部分があっても良い。「月まちみなと」言葉にロマンがあり、それは人を引きつける。



2時間目 楽しく夢を語ったホームルーム

学級委員紹介



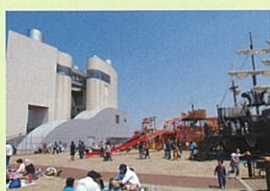
小島 学級委員長 森下 学級委員 高橋 学級委員 桜井 学級委員 鎌倉 学級委員 谷川 学級委員

新潟みなとクラブ初イベントでしたが、学校出席者は約80名と大勢の方に参加していただき、「夢は限りなく」予定時間が足りないほど活発な意見が出され、次回開催が待ち遠しく感じます。

トピックス ◆「山の下みなとランド」オープン(4/28)新潟市が、新潟みなとトンネル山の下みなとタワー隣接地に整備を進めていた公園が開園しました。また、山の下みなとタワー周辺は「みなとオアシス新潟」の施設としても登録されました。(4/24)

イベント情報 ◆帆船「海王丸」が新潟西港に寄港(8/3~5)一般公開や総帆展帆等行われます。 ◆新潟みなと水遊記(7~9月・新潟みなと水遊記ネットワーク) ◆にいがた湊の十五夜(9月中旬・にいがた湊あねさま倶楽部主催)

新潟みなとクラブ行事予定 ◆第2回新潟みなと学校(6月中旬) ◆みなと施設見学会(7月初旬) ◆第3回新潟みなと学校(10月初旬)



「みなぼーと新潟」アンケートご協力ありがとうございました。

「何をPRしたいのか?問題提起がやや不足気味(60代男性)」のご意見がありました。

新潟みなとクラブは、「みなとまちづくり」に取り組むためには、まず今の新潟港を知ることが必要だと考えています。みなさんが港に足を向けてもらい、目で見て実感していただきたい。その手助けとなるような港の魅力を発信する「みなぼーと新潟」を発行しています。

励ましや厳しい言葉など寄せられたご意見は、今後の紙面づくりに活かしていきたいと思えます。

縦じ込みのアンケートはがきでご意見をお寄せ下さい。

<編集後記> ●第2号(春号)をお届けします。「みなとの元気さん、笑顔さん」を訪ねてみなとを歩き回りました。今回紹介出来なかった「元気さん、笑顔さん」には、次の機会に登場していただきたいと思えます。 ●4月1日・新潟市は日本海側初めての政令指定都市としてスタートしました。「みなとまち。みらいまち。新潟市」、魅力ある「みなとまちづくり」に私たち「新潟みなとクラブ」も積極的に参加していきます。

発行：NPO法人新潟みなとクラブ
 事務局：新潟市東区太平四丁目20-32 TEL025-270-7017 FAX025-271-4460
 「みなぼーと新潟」に対する、ご意見・ご感想を上記あてにお聞かせ下さい。
 協力：国土交通省 北陸地方整備局 新潟港湾・空港整備事務所